

第一志望への気持ち

茗溪塾塾長 長谷 誠基

12月に入り、千葉県では中学入試の第1志望入試が終わり、少しずつ合格の知らせも届くようになってきました。この後受験生は冬期講習、正月特訓が終わるといよいよ受験本番に突入します。

入試の結果は当たり前のことですが合格もあれば不合格もあります。今回の第1志望入試や推薦、総合型選抜等で不合格を経験したという人へ、私はある生徒のことをお伝えしたいと思います。

その生徒は12月の第1志望入試を受験しましたが、残念ながら合格はできませんでした。入試のあと保護者の方と三者面談をしましたが、保護者の方は第1志望入試の基本的な問題で不合格だったのだから、一般の問題ではもう無理なのではないか？志望校を変えた方がいいのではないかと半分あきらめていました。そのとき、本人が第1志望をあきらめないのならば、こちらで勝手に変えない方がいいということをお答えしました。すぐに本人を加え三者面談をして、どうして今回の入試はダメだったのか？を考えさせその上で、その学校を再度受験するか？を確認しました。そのとき本人は迷わず「もう一度チャレンジさせてほしい」と言いました。それならということで、入試までもう一度過去問をすべて解くことと、苦手な国語の文章題、知識問題の課題をやることを条件にもう一度受けようということになりました。

その後、冬期講習、正月特訓、そして1月と過去問でなかなか点数は上がらなかったものの、2回やり切り課題もすべてこなして入試を迎えました。

入試の日の午後、受けた学校の問題を持ってきたので、算数を解いて、翌日の入試のためにわからなかった問題の質問を受けたのですが、翌日にまだ入試があるのであえてすべての答え合わせはさせませんでした（よくても悪くても翌日の入試に心理的な影響が残る）。そのとき私は大問1番の(1)の計算を間違えていることに気がつきましたが本人にはそのことは言わず、翌日の入試に向かいました。2日目の入試が終わり、塾に戻ってきました。初日の入試の結果が出ており、やはり残念ながら不合格でした。その夜出た2日目の学校は、無事合格しました。次の日、保護者の方と本人とで再度面談をしました。保護者の方は合格をいただいた学校に進学した方がいいのではないかともし次の3回目の入試で受けて合格しても、ついていけなくなるのではないかとということがご心配のようでした。そこで本人に再度意思を確認すると、やはり最後まで受けたいとはっきり言いました。それを聞いた保護者の方も最後まで頑張らせようと決め、翌日の入試を受けることになりました。

ついに最後の回の入試で合格を手にしたその子は、今学校でも頑張っており、上位の成績を取っています。

やはり入試に大事なものは第1志望校への強い気持ちが大したこと。そして入学後の成績は本人の入学時の気持ちによって変わるのだということ強く感じさせる入試だったと思います。もしあの日入試をあきらめさせていたら、彼が送っている今の楽しい学校生活はありません。受験は心の勝負だということです。